

開講期	2025年度後期			単位数	1.0単位
科目[授業]名	4250 スポーツ方法学実習(器械体操1)			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	条件付			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜1限				
教室	メインアリーナA、メインアリーナB				
代表教員	制野 俊弘				
担当教員	制野 俊弘				
テーマと到達目標	本講義では、器械運動に関する基本的な知識や具体的な指導法について実践的に学ぶ。生徒が興味を持って授業に臨むための具体的な方策、教材解釈や教材づくりの基本を習得する。				
概要	①腕支持感覚と逆さ感覚を中心とした側方倒立回転の指導法②繰り返し系と展開系を学ぶ跳び箱③それらの組み合わせによる「集団演技づくり」の三点について重点的に指導法を学ぶ。特に、多くの生徒がつまづく腕支持感覚と逆さ感覚については、すべての技の基礎として重点的に指導法を学ぶ。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	器械運動の歴史と教材解釈について				対面授業
第2回	体の基礎的な動かし方の習得～「ねこちゃん体操」を中心に～				対面授業
第3回	側方倒立回転の指導法①～腕支持感覚と逆さ感覚，リズムの指導～				対面授業
第4回	側方倒立回転の指導法②～手形・足形・目型を使った指導と分析方法～				対面授業
第5回	側方倒立回転の指導法③～「前ひねり」「後ろひねり」「ホップ」側転の指導法～				対面授業
第6回	側方倒立回転を含む連続技の指導法①～つなぎ技を含む連続技の考案～				対面授業
第7回	側方倒立回転を含む連続技の指導法②～連続技の採点づくり～				対面授業
第8回	跳び箱の指導法①～「台上横跳び越し」から「開脚跳び」「閉脚跳び」へ～				対面授業
第9回	跳び箱の指導法②～「台上前転」から「ネックスプリング」「ヘッドスプリング」へ～				対面授業
第10回	跳び箱の指導法③～「ハンドスプリング」の指導～				対面授業
第11回	マット運動の「集団演技づくり」①				対面授業
第12回	マット運動の「集団演技づくり」②				対面授業
第13回	マットと跳び箱を組み合わせた「集団演技づくり」				対面授業
第14回	マット運動または跳び箱運動の指導案づくり				対面授業
第15回	授業レポートの作成				対面授業
成績評価の基準	出席状況ならびに指導案・レポートの内容を総合的に評価				
履修にあたっての留意事項	マット・跳び箱等の準備があるので10分前には集合し、準備を行うこと。 また、教職科目であることから以下の点について十分に理解した上で受講すること。 ①教員としての資質・能力・自覚を身に付けるために計画的・継続的に努力できる者を対象に授業を組み立てる ②生徒の前で確実に示範ができ、「マネジメント」「インストラクション」「モニタリング」等の技術が十分に身に付けること ③最終的に指導案の作成を行うが、授業内容が十分に反映されないもの、系統的な授業構成ができないもの、安全対策が不十分なもの等については、評価の対象外になること ④教育実習ではマット・跳び箱・平均台・鉄棒のいずれかを担当することを念頭に、得意な教材について積極的に学習・練習に取り組むこと。 ⑤この授業は、実務経験のある教員による授業です。実際に中学生に指導した経験をもとに、具体的な指導法について学びます。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					

【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	
---------------------	--

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし		
教科書	学校体育研究同志会編「新学校体育叢書 器械運動の授業」創文企画 2400円	教科書(ISBN)	
参考文献	三木四郎他編著「中・高校器械運動の授業づくり」(大修館書店)	参考文献(ISBN)	